

地震を知る

震度とは、地震の強さの程度を示すものです。
地震の揺れにより、
どのような現象の被害が
発生するか一般的に例示しています。

気象庁震度階級関連解説表より一部抜粋

震度4

ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。
眠っている人のほとんどが、目を覚ます。

屋内の状況:電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。

屋外の状況:電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。



震度6弱

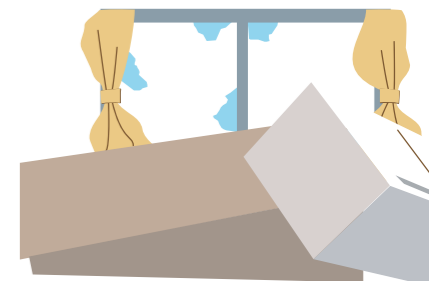
立っていることが困難になる。

屋内の状況:固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。

屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

耐震性が高い木造建物:壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。

耐震性が低い木造建物:壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



震度5弱

大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。

屋内の状況:電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

屋外の状況:まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。

耐震性が低い木造建物:壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。



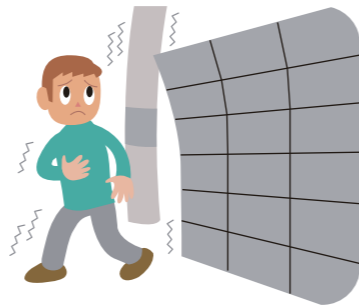
震度5強

大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。

屋内の状況:棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。

屋外の状況:窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。

耐震性が低い木造建物:壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。



震度7

立っていることができず、はわないと動くことができない。
揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

屋内の状況:固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。

屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

耐震性が高い木造建物:壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。

耐震性が低い木造建物:傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。



木造建物(住宅)の定義

(注1)木造建物(住宅)の耐震性により2つに区分けした。耐震性は、建築年代の新しいものほど高い傾向があり、概ね昭和56年(1981年)以前は耐震性が低く、昭和57年(1982年)以降には耐震性が高い傾向がある。しかし、構法の違いや壁の配置などにより耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。

(注2)この表における木造の壁のひび割れ、亀裂、損壊は、土壁(割り竹下地)、モルタル仕上壁(ラス、金網下地を含む)を想定している。下地の弱い壁は、建物の変形が少ない状況でも、モルタル等が剥離し、落下しやすくなる。

(注3)木造建物の被害は、地震の際の地震動の周期や継続時間によって異なる。平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震のように、震度に比べ建物被害が少ない事例もある。